

「音を大切にできる」音楽会に向けて その②

前号でも紹介した先月31日の音楽集会を、会議のために来校されていた教育委員さんが参観してくださり、以下のようにお話をいただきました。とてもうれしく思い、そのことを4日（月）の職員朝会で、先生方に紹介させていただきました。

○ 音楽集会「音を大切に」を参観して

＜31日の音楽集会を参観して下さったS教育委員さん＞

(1) 1年生にも分かりやすい言葉での指導がなされていて、とてもよかった。

「起立」する場面では、全校児童が「音」を意識して立ち上がっていた。

めりはりのある指導・子どもの気持ちに寄り添う教師の指導がありがたい。

(2) 児童の歌声もよかった。からだを動かしてのりのりで歌っている子どもも多い。

(3) 先生方の姿勢がとても温かく感じられた。みんなで子どもをみようという姿勢。

朝マラソンでも、先生がいっしょに走っている姿を見かけた。

音楽集会では、先生方皆で集会に参加して子どもを支えている。「職員集団」としての好ましい雰囲気が強く感じられた。今年度、先生方が一丸となって指導に取り組む姿勢がさらに強くなっていることが感じられる。

「出発を大切に」という先生方の願いが、音楽会に向けての音楽集会においてもあらわれていて、とても頼もしく思った。

職員朝会では、次回の音楽集会の計画についても議題にあがったのですが、そこで担当の中島先生からは、「先程はお誉めの言葉をいただきありがとうございました。ですが麻績の子どもを考えると、まだまだ出し切れていません。これから、もっと自信をもって力強い歌声を響かせることができるようにしたいと思います。先生方もご協力を」と、いかにも中島先生らしい、今後に向けてのエネルギーな発言がありました。嬉しいことです。先生方もにこにこしながら聞いていまし



た。誰もがまだまだ子どもたちの力が伸びることを確信していただきました。何よりも、先生方の気持ちが一つになって子どもたちの力を伸ばすために向いていてくれること、短時間の参観のなかでもそんな雰囲気を感じ取っていただけるほどであることを誇らしく、またありがたく思いました。

わたしの「ひとしずく」

一学期の始業式、校長講話では学校目標の一つ「鍛え合い」にかかわらせて、わたしは「ハチドリの一としずく」という話をしました。

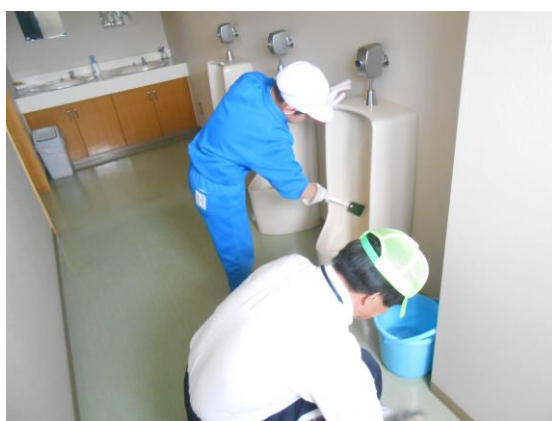
どんな小さいことでもいい。ちょっとしたことでもいい。クリキンディ（山火事のなか、なんといわれようとも小さなくちばしで水を運び続けた小さな鳥）が一滴の水を運び続けたのと同じように、何かのために、誰かのために、そして自分のために何か一つ、ずっとずっと続けていくことを持って欲しいのです。

みなさんなら、どのような「ひとしずく」が見つけれそうですか。わたしも、自分の「ひとしずく」を考えています。機会があったらそのことを教え合いましょうね。

わたしは、自分に何ができるかを考えました。

- 1 6年生の子どもさんとトイレ掃除をいっしょにさせてもらう。
- 2 片道約1.2km（往復約2.5km）を週に1回走る（土日に）。

果たしてこの内容で、子どもたちに話した「ひとしずく」としてよいのかは今も迷いがあります。掃除の時間に掃除をすることは当たり前ですし、運動をすることは誰かのためとは言えません。それでも、まずは自分にそれほど



無理なくできることから始めてみるのが大事だ（それで精一杯だ）と考えました。特に2について、気持ちが弱いわたしはすぐに、何かと言い訳をしながらさぼろうとしてしまいます。そこで、できた日には、カレンダーに赤丸シールをはって、そのシールが増えていくことを励みにがんばって

きました（お子ちゃま、ですね）。ここにこのようなことを書かせていただくのも、さすがにこれだけ公言しておけば、あとで素知らぬ顔でとぼけることもできなくなるはず、と自分を追い詰めて奮起するためでもあります。

一学期終業式には、赤丸シールをはったカレンダーを子どもたちに見てもらっても恥ずかしくないように、1・2ともにがんばろうと思っています。大切なのは、子どもたちにどう響かせることができるか、なのですけどね。